

普通救命講習会

茨木市消防本部では、市民の自主救護能力の向上を目指して、定期的に救命講習会を開催しています。

尊い命を救うためには、救急車が到着するまでの間に、その場に居合わせた人が適切な応急手当や心肺蘇生をすることが非常に大切だといわれています。

いざというとき、正しい応急手当ができるようにこの講習会が開かれています。

あなたの応急手当が生命を救う!

最近、交通事故をはじめ、呼吸器系、循環器系の疾患で、寸秒を争うケースが増加しているそうです。

この中には、尊い命を落したり、後遺症のために社会復帰ができなくなる人も多く、事故の発生や発病直後により早く正しい応急手当をしておけば、救えたかもしれないケースがあります。

救急車が到着するまでの時間は、茨木市では平均で約5分かかります。その間に呼吸が止まったり、心臓が停止したりすると、命を救うことができません。その間の正しい応急手当や心肺蘇生が重要なのです。

人形を使った実習

人形を使った実習では、傷病者を見つけてから、意識の確認、119番通報、AEDが近くの施設にあればもってきてもらうように指示、呼吸の確保など、実際の場合と同じように動きます。

最近、施設のドアなどに「AED」の文字を見かけますが、AEDとは、自動体外式除細動器の英語の略で、臨床的評価によって、除細動（電気ショック）器としての安全性と有効性が確認された機器です。



人形を使って訓練する受講生

受講者は、「同居している家族にもしものことがあった場合を考えて」「子どもに何かあった場合の正しい応急手当を覚えて」「妻が自宅で倒れて救命できなかったことを教訓として」「倒れた人の話を聞いて、何かの時に役に立ちたい」などと皆さん救命に関心を持たれていました。中でも定期的にこの講習会を受講されている70歳代の男性はAEDの使い方をマスターするために今回も参加されていて、その熱心さが印象的でした。

講師は、「重要なことは、3つあります。①できるだけ多くの人の協力を得て救助に当たること ②救急車を誰かに依頼するときは指でさして特定すること ③呼吸がないときはためらわずに応急手当や心肺蘇生を施すことです。多くの方に受講していただくことが、一人でも多くの命を救うことにつながります」と話されていました。

消防本部では、この普通救命講習会（3時間）のほかに、上級救命講習会（8時間）も開いています。また、10人以上であれば生涯学習出前講座として、地域や学校などに出向いて講習会を実施することもできます。

普通救命講習会のあらまし

- ビデオ学習
 - ・応急手当の重要性、心肺蘇生法
 - ・AEDの取り扱い方
- 人形を使用した実習訓練
 - 傷病者を見つけてから心肺蘇生の実施まで（救急通報、人工呼吸、胸骨圧迫、AED）
- 資料配付
 - 救急救命のハンドブック
- 修了証の交付

茨木市消防署救急救助係 TEL 622-6959

茨木市生涯学習出前講座

茨木市では、市民が聞きたいことや知りたいことを、市の職員が皆さんの所へ出向いて話をし、実施しています。

すでに多くの市民が利用していますが、今回は、改めてその利用方法をお知らせすると共に、実際に行われた出前講座の様子を紹介します。

生涯学習出前講座ってどんなもの?

生涯学習出前講座は、出前メニューから講座を選び、その要望に応じて市の職員が市民の所へ出向いて話をし、実施します。

市内に在住・在勤・在学している10人以上のグループであれば申し込みができます。

出前講座のメニューから知りたいことを選んで、その担当課に連絡します。そして、日程調整をした後、講座実施予定日の2週間前までに申込書を提出します。

開催場所は茨木市内に限り、会場は申込者の方での手配となります。講師料は無料ですが、会場使用料や講座に必要な材料がある場合は、申込者が用意します。

なお、出前メニューは、市内各公共施設に置いてあります。インターネットのホームページでもご覧になれます。

環境事業課の出前講座

この日、環境事業課の担当者は三島小学校へ出向きました。

三島小学校では、4年生が「人にやさしい町づくり」をテーマに、人権・総合学習を行っています。ゲストティーチャーを招き、さまざまな話を聞くことにより、自分たちも住み良い町づくりの一員であることを自覚しようという学習です。そのゲストティーチャーの一人として、三島小学校が環境事業課に出前講座を依頼し、担当者が出向くことになりました。

児童たちからは、「仕事は大変ですか」「この仕事をし



環境事業課の担当者の話を聞く児童たち

て良かったことは何ですか」「ごみ出しに関して言いたいことはありますか」などの質問がありました。

担当者は、「ごみの収集やし尿のくみ取りは大変ですが、市民生活に欠かせない仕事です。ごみ収集は今年4月から分別になります。自分たちでできることは自分たちでやるという気持ちが大変だと思います。子どもたちにはまず、ごみの分別収集がどういう意味を持つのかを理解してほしいです。ごみの中には、可燃物や不燃物、ペットボトルなどがごちゃごちゃになって出されているものがあります。ごみを分別することが、自分たちの町を住み良くするというのを知ってほしいですね。子どもたちが実践し、それが家庭全体に、そして、町全体に広がっていくのだと思います」と話されていました。

- 講座の内容については、直接メニューの担当課へ
- 出前講座全般については、市民学習課へ

市民学習課 TEL 624-8182
<http://www.kira.city.ibaraki.osaka.jp/>